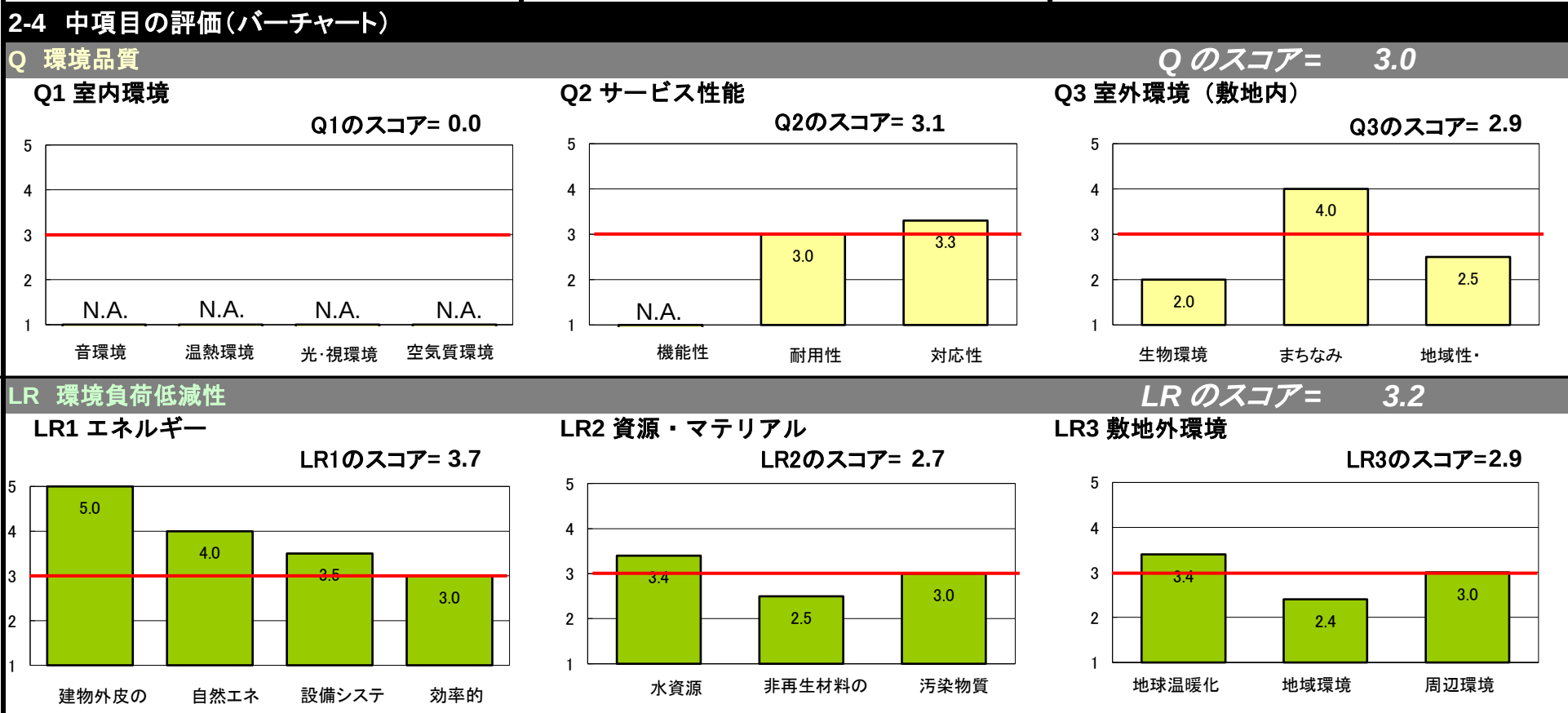
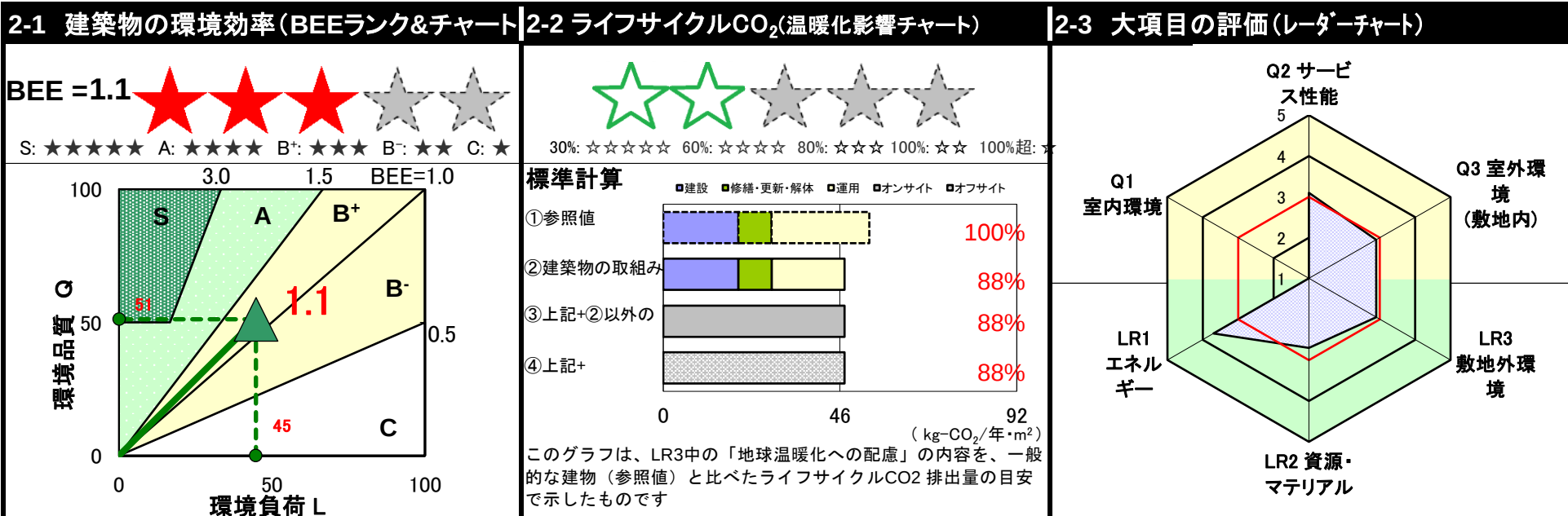


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	シンボ株式会社 新名古屋工場	階数	地下0階地上3階
建設地	愛知県みよし市明知町八和田山3番10 他 20筆	構造	S造
用途地域	市街化調整区域 法第22条区域	平均居住人員	40 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,600 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2022年2月 予定	評価の実施日	2021年3月9日
敷地面積	9,553 m ²	作成者	江川 晃一郎
建築面積	4,018 m ²	確認日	2021年3月29日
延床面積	6,264 m ²	確認者	江川 晃一郎



3 重点項目		
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化	
3.4	2.0	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
		31.3 %
		建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
		0.0 %
②資源の有効活用	④地域材の活用	
2.9	1.0	<外装材に使用した地域性のある材料>
		なし
		<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>
		なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分			住居・宿泊部分		全体		
	重点項目		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点		重み係数	
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル			3.0	-	-					
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能				-	-					
2 界壁遮音性能				-	-		3.0			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-		3.0			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-		3.0			
1.3 吸音				-	-		3.0			
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温			3.0	-	-		3.0			
2 外皮性能			3.0	-	-		3.0			
3 ゾーン別制御性			3.0	-	-		-			
2.2 湿度制御			3.0	-	-		3.0			
2.3 空調方式			3.0	-	-		3.0			
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率			3.0	-	-		3.0			
2 方位別開口					-		-			
3 昼光利用設備			3.0	-	-		3.0			
3.2 グレア対策										
1 昼光制御			5.0	-	-		3.0			
3.3 照度			3.0	-	-		3.0			
3.4 照明制御			3.0	-	-		3.0			
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質			3.0	-	-		3.0			
4.2 換気										
1 換気量			3.0	-	-		3.0			
2 自然換気性能			3.0	-	-		3.0			
3 取り入れ外気への配慮			3.0	-	-		3.0			
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視			3.0	-	-		-			
2 喫煙の制御			3.0	-	-		-			
Q2 サービス性能				-	0.43		-	3.1		
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性			3.0	-	-		3.0			
2 高度情報通信設備対応			3.0	-	-		3.0			
3 バリアフリー計画		独自	3.0	-	-		-			
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)			3.0	-	-		3.0			
2 リフレッシュスペース			3.0	-	-		-			
3 内装計画			3.0	-	-		-			
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計			3.0	-	-		-			
2 維持管理用機能の確保							-			
2 耐用性・信頼性			0.5	3.0	0.52		-	3.0		
2.1 耐震・免震・制震・制振			0.4	3.0	0.48		-			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	3.0	0.80		-			
2 免震・制震・制振性能			3.0	3.0	0.20		-			
2.2 部品・部材の耐用年数			0.3	3.0	0.33		-			
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.23		-			
2 外壁仕上材の補修必要間隔		②		3.0	0.23		-			
3 主要内装仕上材の更新必要間隔				3.0	0.09		-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08		-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.15		-			
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23		-			
2.4 信頼性			0.1	3.0	0.19		-			
1 空調・換気設備			3.0	3.0	0.20		-			
2 給排水・衛生設備			3.0	2.0	0.20		-			
3 電気設備		②	3.0	3.0	0.20		-			
4 機械・配管支持方法			3.0	3.0	0.20		-			
5 通信・情報設備			3.0	4.0	0.20		-			
		精密機械の地下への設置無し、災害時の有線電話設置有り、等								

3 対応性・更新性					0.4	3.3	0.48	-	-	-	3.3			
3.1 空間のゆとり			②	階高:1階4.3m、2階6.2m	0.3	4.2	0.31	-	-	-				
1 階高のゆとり		-			5.0	0.60	-	-	-					
2 空間の形状・自由さ		3.0			3.0	0.40	-	3.0	-					
3.2 荷重のゆとり					3.0	3.0	0.31	-	3.0	-				
3.3 設備の更新性					0.3	3.0	0.38	-	-	-				
1 空調配管の更新性		-			3.0	0.17	-	-	-					
2 給排水管の更新性		3.0			3.0	0.17	-	-	-					
3 電気配線の更新性		3.0			3.0	0.11	-	-	-					
4 通信配線の更新性		3.0			3.0	0.11	-	-	-					
5 設備機器の更新性		3.0			3.0	0.22	-	-	-					
6 バックアップスペースの確保		3.0			3.0	0.22	-	-	-					
Q3 室外環境(敷地内)					-	-	0.57	-	-	-	2.9			
1 生物環境の保全と創出			独自③		-	2.0	0.30	-	-	-	2.0			
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	敷地外周を緑地とすることで、周辺環境に配慮した計画とした。			4.0	0.40	-	-	4.0			
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5			
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④			-	2.0	0.50	-	-	-				
3.2 敷地内温熱環境の向上					-	3.0	0.50	-	-	-				
LR 建築物の環境負荷低減性							-			-	3.2			
LR1 エネルギー						-	0.40		-	-	3.7			
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPIm=0.67	3.0	5.0	0.20	-	-	-	5.0			
2 自然エネルギー利用				トップライトを設置	3.0	4.0	0.10	-	-	-	4.0			
3 設備システムの高効率化				BEI=0.75	3.0	3.5	0.50	-	-	-	3.5			
4 効率的運用					0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0			
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-					
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50	-	-	-					
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50	-	-	-					
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-					
4.1 モニタリング				-	3.0	-	-	-	-					
4.2 運用管理体制				-	3.0	-	-	-	-					
LR2 資源・マテリアル						-	0.30		-		-	-	2.7	
1 水資源保護						0.1	3.4	0.15	-		-	-	3.4	
1.1 節水			節水型便器を採用	3.0	4.0	0.40	-	-	-					
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-					
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67	-	-	-					
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33	-	-	-					
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	2.5	0.63	-	-	-	2.5			
2.1 材料使用量の削減		② 独自	-	-	2.0	0.07	-	-	-					
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25	-	-	-					
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				-	3.0	0.21	-	-	-					
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	1.0	0.21	-	-	-					
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-	-	-	-					
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				3.0	3.0	0.25	-	-	-					
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0			
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-					
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68	-	-	-					
1 消火剤				-	-	-	-	-	-					
2 発泡剤(断熱材等)				-	3.0	0.50	-	-	-					
3 冷媒				3.0	3.0	0.50	-	-	-					
LR3 敷地外環境						-	0.30		-		-	-	2.9	
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率88%			-	3.4	0.33	-	3.4			
2 地域環境への配慮					0.3	2.4	0.33	-	-	-	2.4			
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25	-	-	-					
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50	-	-	-					
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.7	0.25	-	-	-					
1 雨水排水負荷低減				独自	-	3.0	0.25	-	-		-			
2 汚水処理負荷抑制		独自	適切な量の自転車置場および駐車場の確保、荷捌用車両等の確保	-	3.0	0.25	-	-	-					
3 交通負荷抑制				-	4.0	0.25	-	-	-					
4 廃棄物処理負荷抑制				-	1.0	0.25	-	-	-					
3 周辺環境への配慮						0.3	3.0	0.33	-		-	-	3.0	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		② 独自 独自		0.4	3.0	0.40	-	-	-					
1 騒音				-	3.0	1.00	-	-	-					
2 振動				-	-	-	-	-	-					
3 悪臭				-	-	-	-	-	-					
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-					
1 風害の抑制				-	3.0	0.70	-	-	-					
2 砂塵の抑制				-	3.0	-	-	-	-					
3 日照阻害の抑制				-	3.0	0.30	-	-	-					
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-	-					
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				-	3.0	0.70	-	-	-					
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30	-	-		-			

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	2.9
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	2.0
③ 敷地内の緑化				
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:31.3%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式
各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化
重点項目スコア＝各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和
重点項目スコア＝重みの総和

④地域材の活用
重点項目スコア＝評価ポイントの合計＋1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 シンボ株式会社 新名古屋工場

計画上の配慮事項	
総合	LED照明を採用するなど設備システムの高効率化に配慮している。
Q1 室内環境	対象外。
Q2 サービス性能	階高を高く設定し、空間にゆとりをもたせている。
Q3 室外環境(敷地内)	建物外部には視線を遮るような樹木を配置しないなど、防犯性に配慮している。
LR1 エネルギー	LED照明を採用するなど設備システムの高効率化に配慮している。
LR2 資源・マテリアル	省水型機器などを用い水資源を保護している。
LR3 敷地外環境	敷地内に緑地を確保し、暑熱環境を緩和している。
その他	敷地内への搬入土、敷地外への搬出土ができる限り少ない計画とした。 傾斜地である敷地を2つの宅盤に分ける計画とすることにより、1つの宅盤とする計画と比較して、工事の省力化に努めた。